

アラジン通信



第32号

2014. 12. 15

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン

CONTENTS

- ・「介護なんでも文化祭」から「ケアフェス2014」へ P1
- ・(特別寄稿) ケアフェス珍道中 P.2
- ・ケアフェス2014の様子 P3
- ・インフォメーション P4

ケアフェスへのみちのり

「介護なんでも文化祭」から“ケアフェス2014”へ

今年の「介護なんでも文化祭」は10回目を迎えました。前回までの実行委員の交代の時期に当たり、今年2月より有志が集まってそのあり方について話し合ってきました。

上智社会福祉専門学校の先生や学生の方との協議も重ね、その中で 名称を「介護なんでも文化祭」からケアラーをキーワードにした「介護なんでも文化祭に続け！！ケアフェス2014」にしました。

これは過去9年の間に培われてきた知恵や工夫や想いを基にさらに広く深く生きることを考えたいとの気持ちを「ケア」という言葉に込めたものです。また3つのセミナーを開催すること、フロア毎にテーマを設定し「感じる！探す！繋がる！」1日を体験してもらうことにしました。

今回は上智大学生命倫理研究所の秋山梨奈さんが実行委員長を、「そうそうカフェ」の大竹幸浩さんが事務局長を担って下さいました。また出展者＝実行委員という新しい取り組みを行いました。これはみんなで文化祭を考え、作り上げていこうという主旨によるものです。

フロア毎のリーダーを中心に当日まで数回の会議を重ね、若い学生さんが疑問に思うことについて、先輩たちからアドバイスがあ

るなど、これまでにない交流も生まれました。一部のフロアリーダーを学生さんが担うなど早い段階から若い人の活躍も多くありました。

当日の出展は企業8社、各種団体36、学生グループ5、来場者は700名にのぼりました。取材申し込みも多数にのぼり社会の関心の高さが感じられました。

好天にも恵まれ、ゆるキャラが登場するなどにぎやかな一日になりました。事務局としては、今年初めて不織布でできたロゴ入りバッグを作成し来場者に配布し好評を得ました。

アラジンは例年どおり、ブースを出展して活動紹介をするとともに、今年発足した「全国介護者支援団体連合会」のメンバーとしてもセミナーの開催に注力し、60名を超える多くの方にご来場いただきました。

来年度の開催についてはまだこれからとなりますが、また新しい「ケアフェス」が開催されることを期待したいと思います。



(アラジン事務局)

(特別寄稿)

☆ケアフェス珍道中☆

ケアフェス2014 実行委員長 秋山梨奈

2014年10月18日、上智大学で開催されたケアフェス2014。準備から当日を迎え、さらに開催後の“お片付け”までの間には、たくさんのお会い、迷いや葛藤がありました。様々な課題と向き合い、皆の知恵を出し合って乗り越えていくそのプロセスは、まさに1つの旅路でした。それはケアとは何かを考える旅であり、人の力強さを知る旅であり、自分自身と向き合う旅でありました。

◆始まり・・・「介護ってなに？」

「今年の文化祭の方向性を考えるにあたって、若いケアラーや学生さんからも考えを聞きたいので、ちょっと来てもらえませんか？」5月も後半に差し掛かった頃、唐突にこんなメールが舞い込んできました。昨年は上智社会福祉専門学校の社会福祉士・児童指導員科の学生として参加させていただいた私は、なんだか面白そう！とちゃっかり会合におじゃましました。

介護を経験したことのない私にとって、介護とはいわゆる「福祉」の1つでした。そこに「お勉強」から入ってしまった私のなかでは、介護とは制度やサービスによってある程度はっきりした輪郭がつくられており、それは特別なものでした。いつかは自分にも関係するのだろうな、と頭ではわかっているものの、まったくの他人ごと。介護をよくするためには、制度やサービスをいかに充実させるか、という発想しかありませんでした。

◆ふかまり・・・「介護とは生活そのもの」

「あれ？なんかそういうことじゃないみたい。介護って生活そのものじゃん！」

10年前に介護なんでも文化祭を始めてからこれまでの歴史について先輩方からお話を伺い、私はそう感じました。専門家がやってきて涼しい顔をして一方的に話して終わる、そんなつまらないイベントではない。生活の中にある様々な困り事や疑問をみんな考え、泣いて笑って知恵を出し合って解決していく、そんなコミュニティの泥臭さと力強さが培われていました。介護は暮らしそのものであり、だ

からこそシビアで、だからこそユーモラスなんだと、このイベントの本当の魅力に少し近づけた気がしました。

◆ひろがり・・・「暮らしのなかにあるたくさんのケア」

こうなると欲が出てきます。せっかく培われたものをもっと広く活かしたい！介護を「暮らし」のなかで捉え直してみるとそこには複合的な課題が潜んでいます。育児、引きこもり、就労、障がい、疾患、孤立、虐待、貧困…これらは「別もの」ではなく1人の人、1つの家族、1つのコミュニティのなかで複雑に絡み合い、交じり合い、それぞれを形成しています。だからそこに起こる問題や葛藤は本質的に重なる部分が多々あるのではないのでしょうか。そしてそこに共通してあるのが「ケア」です。

◆むすび・・・「他人ごとから自分ごとへ」

ケアとは人と人との「結び」を支える「想い」そのものとも言えます。だから本来ケアは一部の人だけの話じゃない、誰でも経験し得るもの。しかし実際は多くの人にとって「他人ごと」であったりします。実は私もその1人。自分ごととして捉えるには「気づき」が必要です。それも人から与えられたものではなく、自ら気づくことが重要。それにはやっぱり「体験」だ！ということで、今年のテーマは「他人ごとから自分ごとへ」、コンセプトは「暮らしとケアの疑似体験ツアー」となりました。バタバタの旅路でしたが、なんとかそれぞれの想いと努力が結ばれ、ケアフェス2014は当日を迎えることとなりました。

◆楽園・・・「旅の続きは」

さて、はたしてどれだけの「他人ごと」が「自分ごと」に変化していったのか。それはわかりません。でもゲーテさんの言葉を借りれば「人が旅をするのは到着するためではなく、旅をするためである」なのだと思います。

ケアフェス2014は旅の通過点に過ぎません。その続きはメンバーがそれぞれに描いていくものなのかもしれません。といいながら、ケアフェス2014が終わろうとしている今、10年分の想いが受け継がれ、また新たな旅が始まろうとしている…そんな予感にドキドキしているのは私だけでしょうか。

<ケアフェス2014の様子>

■ 1階（はじまりひろば）

もしあなたに〇〇が起ったら・・・あなたならどうしますか？介護者や若者への就労支援や相談、もう一つの人生の体験（もし×もしツアー）など様々なジャンルの出展がありました。



もし×もしツアーの受付



ソラリンちゃんあらわる

■ 2階（ふかまりセミナー）

学びたい！ケアに関する知識を深めたい！という声に応えて、①暮らしと地域、②制度とサービス、③子ども・若者の3つのテーマでセミナーを開催しました。

全国介護者支援団体
連合会のセミナー風景



■ 3階（ひろがりひろば）

仕事に介護に大忙し！自分なりの介護を見つける、広げるをテーマに、介護者の会を始め、インフォーマルサービスやケアプラン、福祉用具など17団体の出展があり、子育て支援や高齢期の住まい方、ケアコンなどのワークショップも開催されました。アラジンもブースを出しました。

廊下で
「しゃべり場」



各介護者の会もちらして参加

■ 4階（むすびひろば）

そろそろ？住み替えや終の棲家の選び方、看取りから葬儀・相続まで、人生や介護の結び方を知る、考えるフロアー。ワンちゃんのドッグセラピーやアロママッサージで癒される来場者も多くいました。



ドッグ
セラピー
で癒される



実演もありました



ソフィアン君もアロママッサージ

■ 5階（楽園カフェ）

五感を開放！世代や立場を超えて交流するひろば。交流スペースでのパンの販売やコーヒーの提供、学生さんによる音楽演奏や影絵、アロマやセラピー、マッサージの無料体験などちょっと癒される空間が演出されていました。



食事をしながらの交流



影絵に見入る子供たち



パンはまだありますよ

☆ケアラーズカフェ&ダイニング アラジンは、一時閉店いたします

2012年4月にオープン以来、皆さまに応援して頂いた「ケアラーズカフェ&ダイニング アラジン」は、スペースを見直し移転のために、一時閉店いたします。

リニューアルオープンまでには数か月かかりますが、介護者支援の機能を増やし、新たな場所で活動を広げていきますので、ご期待ください。

☆「ケアと人生を拓く 夢プロジェクト」がスタートします

今年度後期事業として東京都補助金事業が始まりました。

この「夢プロジェクト」は、介護をしている30~40代の男女の方へ出会いの機会を提供する場として発足いたしました。新しい交流が生まれるきっかけとしての「クッキング交流会」や1泊2日の「出会いと起業のワークショップ合宿」も開催いたします。

1回目のクッキング交流会は11月24日に新宿四谷で行いました。

講師の指導のもと男女9名がクリスマス料理に挑戦。おしゃべりも盛り上がりました。新しい出会いはあったでしょうか・・・



次回クッキング交流会は12月。ワークショップ合宿は来年の1月と3月に行います。一般の方も参加可能です。詳細はアラジン事務局へお問い合わせください。

◆第2回クッキング交流会

12月13日(土) 10時~14時30分
於：四谷地域センター11階調理工作室
参加費：3,000円(介護者2,000円)

◆「出会いと起業のワークショップ合宿」

2015年1月10日(土)~11日(日)
3月7日(土)~8日(日)
宿泊：東京都桧原村「兜家旅館」

事務局リレー便り

年の瀬の慌ただしさを感じ始める季節となりました。

「介護」という言葉を新聞やテレビで見聞きしない日はなくなり、関心は確実に高くなってきています。でも、一言で「介護者」と言っても、置かれている環境や立場は人それぞれです。何より、育ってきた環境や考え方のクセ、自分が大事にしていること、などなど同じ人はいませんか、1つとして同じ介護はないのではないのでしょうか。

私は、数年前に仕事、介護、育児が同時期に重なり、自分の中での両立を目指した結果、自分だけでなく家族のことも追いつめ、実は誰もハッピーではなかったことに最近気がつきました。当時は、同じ様な立場の方と思いを共有したり、情報を得たりする場があることを、情報としては知っていても、自分とその場が結びつくことはありませんでした。

その後、介護者こそ支援が必要という思いが高まった時にアラジンと出会い、現在は、介護者の会の立ち上げや、その会を支えるサポーターの方の学習会や交流会に関わっています。既存の会はもちろんですが、たくさんの方のいろいろな思いをやり取りし、スタートし始めている介護者の会の存在を、「今」この場を必要としている、1人でも多くの方に知っていただき、「1人じゃない」ことを感じていただきたいと思っています。(事務局 佐藤典子)

編集後記：今年の夏は「デング熱」で大騒ぎでしたね。アラジン事務所のすぐ近くにある新宿御苑でも発症の報告はありませんでしたが、9月から10月にかけて閉鎖されました。その騒ぎもすっかり離れたこの時期には見事な紅葉がひろがっていることでしょうか。(近いのになかなかいけません・・・)

あっという間に今年も残り少なくなりました。年末の総選挙で終わる2014年ですが、来年はもっと良い年になりますように。皆さまも健康にご留意され、良いお年をお迎えください。(M・O)

発行：NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン 発行者：牧野史子
事務所：〒160-0022 新宿区新宿1-25-3 エクセルコート新宿302号
TEL 03-5368-1956 FAX 03-5368-1956
E-mail arajin2001@minos.ocn.ne.jp URL <http://www12.ocn.ne.jp/~arajin>